

Aomori Art Stroller

サンボビト
あおもりアート散歩人

no.0 準備号

2008年4月26日開館！
十和田市現代美術館
Towada Art Center



青森の地にまたひとつ、新しい美術館が誕生します。

いくつかの個性的な美術館や博物館、アートNPOの活動など、青森は今、アート散歩人にとって注目のエリア。この春、またひとつ、魅力的な美術館が開館。青森県十和田市が推進するアートによるまちづくりプロジェクト「Arts Towada (アーツトワダ)」。その中心となる施設が「十和田市現代美術館」です。国内外で活躍する21人のアーティストによる都市や自然、人々との対話の中から生み出された作品が展示されます。本紙「あおもりアート散歩人」は、代表的なアートのスポットの情報提供を行い、アートをもっと楽しみたい方々が、自由に県内を周遊できるようにサポートすることを目的に発行しました。まずは、十和田市現代美術館をスタートに、春のアート散歩にお出かけしてみませんか？

十和田市現代美術館開館記念展

オノ・ヨーコ | 入口 4月26日(土)～7月6日(日)

観覧料：一般400円、団体(20名以上)300円、高校生以下無料。常設展示を観覧する場合は別途観覧料が必要です。

関連イベント トーク ゲスト：松井みどり(美術評論家) 小沢剛(アーティスト)

日時：2008年5月31日(土) 14:00～(予定) 料金：無料(要観覧チケット) 予約不要。

*関連イベントの内容につきましては、変更、追加の可能性があります。当館までご連絡いただくか、ホームページをご覧ください。ただし当日の参加状況により、やむなく入場制限を行う場合があります。

入口
オノ・ヨーコ

十和田市現代美術館 Towada Art Center

〒034-0082 青森県十和田市西二番町10番9号
電話：0176-20-1127/ファクス：0176-20-1138
www.city.towada.lg.jp/artstowada/
www.artstowada.com/

開館時間：展示室 午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで)

休憩スペース等 午前9時～午後9時

休館日：月曜日(月曜が祝日の場合はその翌日)

観覧料：〈常設展〉一般/500円(高校以下は無料)、

団体(20名以上)/1人につき400円(同)

〈特別展〉市長がその都度定める額

※児童生徒引率の教職員、また障害者の介助者は無料です。

アクセス

- JR東北新幹線<はやて> 東京駅→八戸駅(所要時間約3時間)
八戸駅西口からJRバスで約40分「十和田市現代美術館」下車すぐ
八戸駅東口から十和田観光電鉄バスで約1時間「十和田市中央」下車徒歩5分
十和田観光電鉄十和田市駅より徒歩20分
- 八戸駅から車で約45分
三沢空港より車で約40分
青森空港より車で約1時間40分



八戸市美術館（八戸市）

郷土ゆかりの先人作家と現代作家の作品のほか伝統的工芸美術品、油絵、日本画、書、彫刻、染織など1000点を越える多彩なコレクションから、常設展のほか特別展を開催。

[特別展]

オランダ絵本作家展

4月26日（土）－5月25日（日）

オランダを代表する絵本作家マックス・ベルジュイスやディック・ブルーナをはじめ総勢12名の絵本作家による絵本原画や出版絵本により、心豊かな絵本の世界を紹介。

コレクション展Ⅰ「豊島弘尚展」

5月30日（土）－7月21日（日）

美術館のコレクションを四期に分けて紹介するコレクション展がスタート。第Ⅰ期として、八戸市出身で国内外において個展やグループ展を中心に活躍を続ける画家豊島弘尚氏を取り上げ、画家人生の中で最も影響を受けた「北欧」をテーマとした作品を中心にその画業を振り返る。

ICANOF イカノフ（八戸市）

「ICANOF（イカノフ）」は、市民がアートをつくり出し、アートが市民をつくり出すような「インタラクティブ＝双方向的」な場を提案し、企画し、実現していくプロジェクト・ユニットです。

[企画展]

ICANOF第8企画展『68-72*世界革命*展』

2008年7月24（木）－8月24(日)日 入場無料

会場・共催：八戸市美術館 ／キュレーター：豊島重之

激動の時代「68-72年」をテーマとした写真、造形画、映像作品による企画展。多くの、特に若い世代にとっての「68-72」は、遠いあるいは既に忘却された時代であるにもかかわらず、今日の世界状況に直結したアクチュアリティがあるとICANOFは考えました。伊奈信男賞を受賞したばかりの北島敬三氏や「オキナワ」を撮りつづける比嘉豊光氏をはじめとした作家たちの作品を通じて、「68-72」の時代から現在を振り返り、未来へと通じる展覧会を目指します。また、シンポジウムやスライドトークも含めた『全国フォーラム2008』、更に各出品者の作品による「ポスター展」も同時開催。

ワタシ達ハイマモ「バタイユ＝交戦」状態ニアル！

■出品作家・講師：北島敬三（写真家・07年度伊奈信男賞）比嘉豊光（写真家）月館敏栄（建築家）伊藤二子（油彩造形家）・倉石信乃（批評家）大島洋（写真家）秀実（文芸批評家）稲川方人（詩人・07年度高見順賞）前嵩西一馬（文化人類学）平倉 圭（美術作家）鴻英良（演劇批評家）土屋誠一（美術批評家）笹岡啓子（写真家・VOCA展2008奨励賞）金子遊・平澤直治・荒井浩之・米内安芸・半田 晴子・柏瀬八峰・岩田雅一・佐々木遊・岩間徳衛 ほか

七戸町立鷹山宇一記念美術館（七戸町）

七戸町名誉町民で二科会を中心に活躍をした洋画家・鷹山宇一画伯を記念し開館。鷹山宇一作品のほか、鷹山がコレクションした19世紀後半西洋の装飾卓上ランプを展示。また、七戸町・見町観音堂、小田子不動堂に奉納された「南部小絵馬」をはじめとする国指定重要有形民俗文化財なども紹介。

[特別展]

鷹山宇一生涯100周年記念展

「宇一が愛した西洋ランプ／故郷に帰った作品たち～今、いつときの、預かりもの～」

4月27日（日）－8月31日（日） ※月曜休館。但し、4/28、5/5、7/21は開館。8月は無休

「ランプのガラスのような透明感あふれる作品を描きたい」という憧れを抱き続け、鷹山がコレクションした「美」の結晶・西洋ランプを特別展示するとともに、初期から晩年にいたる木版画・素描画・油彩画や、数々の作品が生み出されたアトリエを再現し紹介するほか、秘蔵資料を初公開。併せて、八戸市美術館・鈴木コレクションから、棟方志功、東郷青児など親交を深めた画家仲間たちの作品を紹介。棟方志功、東郷青児など親交を深めた画家たちの作品を紹介。70余年に及ぶ画業に培われた審美眼と鷹山芸術の深層に迫る。

寺山修司記念館（三沢市）

寺山修司の母はつ氏より寄贈された遺品約1万2千点を保存公開。寺山と親交のあった粟津潔氏の基本デザインを元に、寺山主宰の劇団「演劇実験室・天井桟敷」をイメージして作られた展示も外観もユニークな記念館。詩や短歌、俳句、映画、演劇、作詞、評論など多領域で活躍した寺山の足跡を辿る「寺山探し」が楽しめます。

[企画展]

世界を駆け抜けたテラヤマ・ワールド

開催中－7月末まで

カンヌ映画祭正式出品や演劇祭や映画祭での受賞など、海外での活躍や高い評価ぶりを、直筆のノート、表彰状類、新聞記事などをまじえて紹介。



八戸市美術館

〒031-0031 八戸市大字番町10-4

Tel.0178-45-8338 Fax.0178-24-4531

artmuseum@hec.hachinohe.ed.jp

http://www.hachinohe.ed.jp/artmuseum/

開館時間 9:00-17:00

休館日 第一を除く月曜日（祝日の場合は翌日）

JR本八戸駅から徒歩10分。東北新幹線八戸駅からバス「三日町」下車～徒歩3分。

上記作品：《輝くオーディンの槍》豊島弘尚 1988年



ICANOF事務局

〒031-0022 八戸市糠塚古常泉下14-18

Tel.090-2998-0224（担当：高沢）

mol@r66.7-dj.com

http://www.hi-net.ne.jp/icanof

写真：2006年12月、ICANOF沖縄展の模様（那覇・前島アートセンター）。壁面の展示は、岩田雅一（左）半田晴子（右）



七戸町立鷹山宇一記念美術館

〒039-2501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

Tel.0176-62-5858 Fax.0176-62-5860

開館時間 10:00-18:00

休館日 毎週月曜（祝日の場合は翌日）

JR東北本線「三沢駅」からタクシー約30分

上記作品：鷹山宇一「早春賦」（キャンバス・油彩／1990年）



三沢市寺山修司記念館

〒033-0022 三沢市大字三沢字湊代平116-2955

Tel.0176-59-3434 Fax.0176-59-3440

http://shuji-museum.misawasi.com/

開館時間 9:00-17:00（4月～10月/11～翌年3月16:00まで）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日）年末年始（12/28～1/3）

三沢駅から車で約20分 三沢空港から車で約10分

青森県立美術館（青森市）

シャガールによる《アレコ》舞台背景画、奈良美智《あおり犬》のほか、近・現代の青森県出身作家及びゆかりの作家をコレクションするほか、映画、演劇、音楽など様々な芸術活動を展開。建築は青木淳、ヴィジュアルアイデンティティ設計者は菊地敦己。

【企画展】

寺山修司 劇場美術館：1935-2008

4月1日（火）－5月11日（日） 観覧料：一般1,000円 高校生・大学生600円 小学生・中学生300円
幅広いジャンルで活躍したマルチアーティスト、寺山修司（弘前市出身）の活動を一望できる、過去最大級の展覧会。

【常設展示】

春のコレクション展 ― 斎藤義重、工藤哲巳、江口隆哉…、「時代」を作った芸術家たち

4月15日（火）－6月22日（日） ＊5月12日、26日は休館

日本のモダンダンス界に大きな影響をもたらした野辺地町出身の舞踏家江口隆哉をはじめ、時代の先端を走った青森ゆかりの芸術家の仕事を紹介し、その先駆性や前衛性を検証します。

【パフォーミングアーツ】

アレコ・ピアノコンサート：6月21日（土）＜ピアニスト 今田匡彦＞
Dance Aleko AOMORI Lab'：＃1 6月28日（土）、29日（日）「アレコ」をテーマにしたダンスワークショップ。＜アーティスト 岩淵 伸雄＞
【オープンアトリエ～「見る」と「つくる」を楽しむことも向けプログラム～】5月18日（日）「大きな絵をかく」／6月15日（日）「怪物デザインを考えよう」 ＊要申込
【アート入門～西洋美術史入門～】5月25日（日）、6月8日（日）13:30-14:30 ＊5-12月 全8回開催。 申込不要。

国際芸術センター青森（青森市）

国内外から優れたアーティストを招いた滞在制作発表を中心に、美術、音楽、ダンスなど幅広いワークショップ（体験講座）を多彩に開催。個性豊かな企画展や、森の散策をしながらの野外彫刻鑑賞も楽しむことができます。

【企画展】

笑ふ家具 展 ―フィラデルフィアの家具スタジオと青森のマイスターたちが作る家具

4月25日（金）－5月11日（日）ギャラリーA 10:00－18:00

11年前、青森に滞在したアメリカの木工家マイケル・ハーウィッツさんが、青森のマイスターたちのためにデザインした家具を展示。3年の制作年を経ての発表です。

わにもっこの” 進行形” ―ing・ing・子供との関係を考えよう展―

4月25日（金）－5月11日（日） ギャラリーB 10:00－18:00

春のアーティスト・イン・レジデンス2008「タンジェント」

6月14日（土）～7月13日（日）10:00－19:00

国際芸術センター青森（ACAC）にて滞在制作を行ったアーティストたちの作品を発表。期間中、ワークショップ、レクチャーも開催。

参加アーティスト：手塚愛子(東京)、金氏徹平(東京)、サンドラ・カンタネン(フィンランド)、サラ・チラチ(イタリア)

棟方志功記念館（青森市）

少なめの作品数でも一点一点をじっくり見て欲しい、という棟方志功画伯の意を受け、代表作「釈迦十大弟子」の常設展示および、30～40作品を年4回展示替えを行ない、画伯の幅広い芸業を紹介。

【企画展】

春の展示 「板画の命伏一妙（白）と黨（黒）の呼吸」

4月1日（火）－6月29日（日）

棟方志功の板画作品には裏彩色が施された色鮮やかなものも数多くありますが、棟方が「絶対の板画」として探求し続けたのは墨一色で摺られた板画でした。板画を制作し始めてまもなく、「白黒絶対な所以から生まれて来る多色感を本体とした無妙の色彩」を見出した棟方は、白と黒だけで表現された力強く美しい、「呼吸しているような姿」の板画をめざして作品を制作しました。このたびの展示では、板画作品のなかから墨一色で摺られた作品を中心に展示し、棟方の追求した白と黒の表現について紹介します。また、白黒の板画の世界とは対照的に濃い原色を用いて描かれた初期から晩年までの油絵なども展示。棟方の幅広い芸業をご覧ください。

青森県立郷土館（青森市）

青森県の考古・民俗資料、歴史や自然、郷土の先人たちなどを紹介する常設展示のほか、特別展示室（大ホール）にてさまざまなテーマで特別展・企画展を開催。

【企画展・特別展】

国絵図特別公開

4月26日（土）－5月6日（火）

館所蔵の津軽郡中絵図（国絵図）や普段展示できない大型絵図を公開。

青函連絡船なつかしの百年 海峡を渡る船と人

5月16日（金）－7月6日（日）

写真家森内四郎氏撮影の青函連絡船写真展と青函連絡船に関する歴史を展示。



青森県立美術館
〒038-0021 青森市安田字近野185
Tel. 017-783-3000 Fax. 017-783-5244
開館時間 9:30-17:00（6-9月は 9:00-18:00）
休館日 毎月第2、第4月曜日、年末
bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
www.aomori-museum.jp/
JR青森駅から車で20分。青森空港から車で20分。東北自動車道青森ICから車で5分。JR青森駅から青森市営バスで約25分、下車後徒歩約5分。



国際芸術センター青森
〒030-0134 青森市合子沢字山崎152-6
Tel. 017-764-5200 Fax. 017-764-5201
acac-1@acac-aomori.jp
http://www.acac-aomori.jp/
開館時間 10:00－19:00
休館日 年末年始および第3日曜（展覧会開催中は無休）
JR青森駅からJR・市営バスにて約40分。東北自動車道青森中央ICから約5km。青森空港からタクシーで約20分



棟方志功記念館
〒030-0813 青森市松原2丁目1番2号
Tel.017-777-4567 Fax.017-734-5611
http://www.lantecweb.net/shikokan/
開館時間 9:30－17:00
休館日 月曜
東北自動車道青森中央ICより15分。JR青森駅よりタクシー10分、市営バス約20分。青森空港よりタクシー30分。



青森県立郷土館
〒030-0802 青森市本町二丁目8-14
Tel. 017-777-1585 Fax. 017-777-1588
開館時間 4月/9:00-17:00（5月～9:00-18:00）
休館日 年末年始および館内整理日
http://www.pref.aomori.lg.jp/kyodokan/
JR青森駅より徒歩20分、車で5分、市営バス約10分

ARTizan / 空間実験室（青森市）

青森市内外のアート創作・サポート・企画運営活動を行い、アートに関わる活動と人のネットワークの場を提供。若手クリエイターの発表の場「空間実験室」の運営や出版活動も行っています。

[プロジェクト]

空間実験室2008

7月18日（金）－11月30日（日）

公募により集まったクリエイター、アーティストたちによる週替りの展示発表を中心に、ワークショップ、ライブなど多彩に開催。

★出展者募集開始5月1日～ 詳細はお問い合わせください。

[出版]

在青手帖（空間実験室2006乙女会議編）

地域に暮らす乙女たちの目線でみた、青森のモノづくり、魅力的な人々、場所を紹介。青森再発見の1冊。新しい旅行ガイドブックとしても必携。（県内外書店、雑貨店などで取り扱い中）



ARTizan / 空間実験室

〒030-0862 青森市古川2-10-9 おおし珈琲2F
Tel.090-9423-1009 Fax.017-775-8120
kukan06@jomon.ne.jp
<http://artizan.fromc.jp/index.html>
<http://artizan.fromc.jp/spacelab>
JR青森駅より徒歩5分。青森市営バス古川バス停より徒歩1分。

弘前市立博物館（弘前市）

津軽藩政を中心として歴史、美術工芸資料を系統的に展示。企画展では、津軽の風土・伝統に培われた文化にスポットをあて、資料や文化遺産、郷土ゆかりの先人の事績などを紹介。

[企画展]

津軽のかたち

4月5日(土)－6月1日(日) ＊4/7・4/14・4/21・5/12・5/19・5/26の月曜日休館

津軽の民芸・工芸を紹介する展覧会です。雪深い北国は手仕事の宝庫でした。織物と見まがう精緻な刺繍「こぎん」、県重宝に指定されている色とりどりの津軽塗手板、大空を華やかに彩る津軽風絵など約200点を展示します。他に悪戸焼・下川原土人形・こけしなどを紹介します。

りんごを描く－小柳吉次展－

6月7日(土)－7月13日(日) ＊毎週月曜日休館

小柳吉次氏は弘前市出身の気鋭の洋画家で二紀会委員として活躍中であり、また、ボタニカルアート(植物画)の第一人者としても知られています。本展では弘前市のりんご公園で描かれたりんごの花20種を中心に、ボタニカルアート作品や油彩画の代表作を紹介します。

上記企画展に「津軽の歴史展」が併設します。



弘前市立博物館

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町1-6 弘前公園内
Tel. 0172-35-0700 Fax.0172-35-0707
hakubutsu@hi-it.net
<http://www.hi-it.net/~hakubutsu/>
開館時間 9:30-16:30
さくらまつり・ねぶたまつり・特別企画展開催中の各金曜日
(4/25・5/2・8/1・9/12・9/19・9/26・10/3)は19:00まで。
JR弘前駅から弘南バス「土手町循環100円バス」または「駒込線」、
「四中校線」に乗車。市役所前公園入口下車、徒歩5分。

NPO法人 harappa（弘前市）

2002年に開催した「奈良美智展 弘前」を開催後、展覧会運営を行った有志により2003年にNPO設立。harappaギャラリーでの展覧会企画、アートプロジェクトの開催や、アートボランティアの場の提供、アーティスト支援など多彩な活動を展開。

[harappa gallery]

M I X 1

5月1日（木）－25日（日）※最終日17：00まで

企画展「M I X」シリーズは、東北出身または在住のアーティストを紹介展示します。第1弾は、テーマを「ホトトギス」とし、弘前出身のイラストレーター工藤陽之と秋田出身の切り絵アーティスト鎌田沙織の作品を紹介します。

harappa洋品展－Tシャツ－

6月1日(日)－24日(火) ※最終日17：00まで

若手クリエイターの最新作やここでしか見る事のできないオリジナル(手描き、手作り)Tシャツをはじめ、Tシャツをイメージした作品を展示販売します。お気に入りの1枚に出会えるかもしれません。Tシャツから初夏の風を感じ、さわやかな季節をお楽しみください。★「harappa洋品展－Tシャツ－」出品者募集中



NPO法人 harappa

〒036-8182青森県弘前市土手町112
10:00-19:00 (水曜休)
Tel.0172-31-0195 Fax.0172-31-0196
post@harappa-h.org
<http://harappa-h.org/>
青森空港からバス「弘前バスターミナル」下車、徒歩10分。
JR弘前駅から徒歩10分。弘南鉄道中央弘前駅から徒歩5分。

あおもり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会は、暮らしの中で気軽にアートに親しめる環境づくりとともに、地域の芸術拠点の活性化を図るため、県内の美術館、博物館、アートNPO等が相互に連携して地域の芸術振興に取り組み、施策（プロジェクト）を研究するとともに、パイロット的に事業展開していくものとして平成20年3月に発足しました。

この度、プロジェクトの第1弾として、研究会に参加している各アートのプログラムの網羅した、フリーペーパーを作成することとしました。このフリーペーパーは、各アートのプログラムを相互に結びつけ情報発信することで、アートの楽しさを伝えていくとともに、新しい楽しみ方を提案していく「コミュニケーションの場」となっていくことを目指しています。

AOMORI ART STROLLER／あおもりアート散歩人（サンボビト） no. 0準備号

編集・発行：あおもり芸術振興ネットワークプロジェクト研究会
お問い合わせ：青森県立美術館内（ネットワークプロジェクト担当）
〒038-0021 青森市安田字近野185 Tel. 017-783-3000 Fax. 017-783-5244
bijutsukan@pref.aomori.lg.jp
www.aomori-museum.jp/